

ダイフク滋賀事業所 結いの森

-株式会社ダイフク-

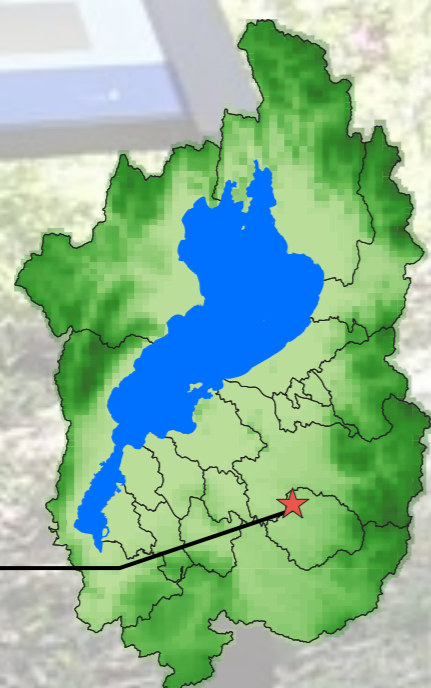
人と自然、水と緑、人と人がつながる森

「結いの森」では、『ダイフク環境ビジョン2050』に沿って、生物多様性の保全と自然との共生を進めています。池や森林を整備し、希少種の保護や環境学習を通じて、持続可能な社会に貢献します。

場所:滋賀県蒲生郡日野町

面積:2.63ha

ダイフク滋賀事業所
結いの森



結いの森 ヤマトサンショウウオ保全池



しが生物多様性取組認証
3つ星取得



サイト概要

本サイトは、保全池や学習広場を含む森林を主体としたエリアです。農業用ため池「しゃくなげ池」に沿った散策路を基盤に、アカマツ保全林、ヤマトサンショウウオ保全池、生きもの観察池を整備し、植生浮島も設置しています。2014年から保全・整備を続け、鳥類やトンボ類など多様な生きものが生息し、自然観察や学習の場として活用しています。

地域等との連携

- 琵琶湖博物館と連携し、2019年に地域個体群の保全を目的として、ヤマトサンショウウオを提供しました。個体は保護増殖センターで飼育され、現在は常設展示も行われています。
- 2025年に地域の学童保育所で生物多様性保全のアイデアワークショップを実施しました。社員と小学生が身近な生き物や絶滅危惧種について学び、自然との共生やダイフクの技術とのつながりを考える機会を提供しました。



学童保育所での生物多様性保全アイデアワークショップ

活動の内容

「結いの森」は、事業所内の自然資本を活かし、自然と共生する場です。保全池では希少種ヤマトサンショウウオの保護・増殖に取り組んでいます。従業員とその家族向けの自然観察会では植栽を行い、県内小学校の環境学習にも活用することで、学びと交流の場を提供しています。さらに、間伐材をポストカードや樹木プレートに再利用したり、チップ化して遊歩道に敷設するなど、資源循環を推進しています。



ヤマトサンショウウオの卵をカゴで飼育



結いの森クイズに挑戦する小学生

ネイチャーポジティブに向けてのメッセージ

ダイフクは、「マテリアルハンドリングシステムが環境負荷ゼロで動く世界」を目指し、自動化技術で物流の効率化、省エネルギー、CO₂削減に取り組んでいます。さらに「自然資本への負の影響ゼロ」を掲げ、ものづくりや物流に関わる事業活動で生物多様性保全や環境負荷低減に取り組んでいます。

プラスチックごみ回収と調査による地域環境保全の取り組み

滋賀県近江八幡市の「北之庄沢を守る会」と連携し、河川に漂流するプラスチックごみの回収や調査を行っています。地域と協働し、ダイフクの技術を活かして、河川環境の保全とごみ削減に取り組んでいます。



北之庄沢を守る会の清掃活動



プラスチックごみ回収機のプロトタイプ

生物多様性の状況

滋賀事業所では、在来の動植物あわせて約1,000種が確認され、そのうち約70種は希少種に分類されています。自然共生サイト「結いの森」では196種が確認され、ハヤブサ、ヤマトサンショウウオ、トゲアリ、キンラン、キキョウなど、環境省レッドリストで絶滅危惧II類(VU)に指定される種も含まれています。



ハヤブサ



ヤマトサンショウウオ(成体)



ヤマトサンショウウオ(幼生)



トゲアリ



キンラン



キキョウ



オグマサナエ